

日本生活体験学習学会学会誌『生活体験学習研究』の査読の評価と基準

『生活体験学習研究』は、日本生活体験学習学会年報・学会誌編集規定に基づき、年報・学会誌編集委員会が編集を行うものであるが、掲載の採否に関わる査読については同規程第 11 条により、同編集委員会が指名、依頼した会員が行い、同規程第 12 条、すなわち、「査読の評価は、『採択』（掲載可）、『修正採択』（部分的な修正をすれば掲載可）、『不採択』（掲載不可）に区分される。」によって実施される。

本査読基準は、査読を依頼された会員が実際に査読を行う際に留意すべき点を明記し、その公正・公平性を担保するとともに、査読のスムーズな実施を進めるために作成したものである。作成に当たって、会員が投稿の際に査読基準を意識して原稿の内容を精査することは重要であると考え、査読基準を公開することとした。

● 自由投稿実践研究論文・自由投稿理論研究論文

<投稿の条件>

自由投稿実践研究論文・自由投稿理論研究論文は、当該年度までの本学会研究大会において口頭発表をしたものと同一の主題または内容のものに限る。論文は未掲載のもので、かつ内容がオリジナルなものであること。

この条件については、査読前に紀要編集委員会が確認を行う。明らかに投稿条件に該当しないと判断された論文については、査読・掲載の対象とはしない。

<査読の評価>

投稿論文の査読の評価は、以下の査読基準に従って行い、その結果を総合的に勘案し、以下 3 つに区分する。

採択(掲載可)

修正採択(部分的な修正をすれば掲載可)

不採択(掲載不可)

査読後の論文の修正については、投稿者が作成する「修正回答書」に基づいて編集委員会が確認を行う。修正が十分で無い場合は、掲載不可の可能性もある。

<査読基準>

①形式の適正さ

- a. 『生活体験学習研究』学会誌編集規定・執筆要項を厳守しているか。
- b. 本学会に掲載する原稿として分野は妥当か。
- c. 注・引用文献・資料は適切か。

②研究の目的と方法の妥当性

- a. 論文題目が適切か。
- b. 研究目的が明確か。
- c. 生活体験学習研究に貢献できる課題設定か。
- d. 問題設定（目的）に照らして、研究方法は適切か。
- e. 研究対象は適切に選ばれているか。
- f. 史（資）料を適正に引用しているか。
- g. 研究目的に応じて適切な根拠を示して論証を行っているか。

③研究成果の独創性と先行研究の把握

- a. 先行研究の踏まえ方が適切か。適切な引用がなされているか。
- b. 研究成果の独創性が示されているか。

④文章表現・用語・図表の適切さ

- a. 論旨が一貫しているか。
- b. 使用されている概念、用語は適切か。
- c. 文章表現は適切か。
- d. 図表の表現は適切か。
- e. データの解釈は妥当か。
- f. その他、不適切な表現などはないか。

⑤研究倫理の遵守

- a. 研究倫理に関する記述がなされているか。
- b. 研究協力者に関する倫理的配慮が示されているか。
- c. 研究対象者（児童等）の氏名、写真等について、必要に応じてプライバシーの保護のため、匿名化が図られているか。

● 研究ノート

研究ノートについては査読を行わないが、学会誌に掲載することを踏まえ、以下の観点に基づき年報・学会誌編集委員会が確認を行う。

なお研究ノートには、実践に関するノートも含む。

<確認の観点>

①形式の適正さ

- a. 『生活体験学習研究』編集規定・執筆要項を厳守しているか。
- b. 本学会に掲載する原稿として分野は妥当か。
- c. 注・引用文献・資料は適切か。

②文章表現・用語・図表の適切さ

- a. 論旨が一貫しているか。
- b. 使用されている概念、用語は適切か。
- c. 文章表現は適切か。
- d. 図表の表現は適切か。
- e. データの解釈は妥当か。
- f. その他、不適切な表現などはないか。

③研究倫理の遵守

- a. 研究倫理に関する記述がなされているか。
- b. 研究協力者に関する倫理的配慮が示されているか。
- c. 研究対象者（児童等）の氏名、写真等について、必要に応じてプライバシーの保護のため、匿名化が図られているか。

（2023年12月16日 日本生活体験学習学会理事会承認）